

特別研究報告書

自閉児の追跡調査による教育の内容・方法に関する研究

目 次

I 研究経過と今後の展望

- | | | |
|---------------------|------------|---|
| 1. 本研究の目的と経過 | 武居 孝男…………… | 1 |
| 2. 自閉症の予後調査研究の動向と課題 | 平井 保…………… | 5 |

II 事例

- | | | |
|--|------------|----|
| 1. 学校教育をほとんど受けられないまま、 比較的早期から福祉施設で生活しているB事例 | 馬岡 清人…………… | 19 |
| 2. 対人関係が円滑にいかないため就学猶予になった児童が、 養護学校高等部卒業後地域作業所に通所しているC事例 | 大内 満…………… | 23 |
| 3. 精神薄弱養護学校高等部卒業後、 入社3年目を迎え順調に勤務しているF事例 | 広瀬 淑子…………… | 27 |
| 4. 小・中・高と同一の精神薄弱養護学校で教育を受け、卒業後、 精神薄弱者の更生援護施設で指導を受けているH事例 | 平井 保…………… | 31 |
| 5. 通常の小・中学校から養護学校高等部に進学し、 現在、進路を検討しているJ事例 | 寺山千代子…………… | 35 |
| 6. 10歳まで音声言語はなかったが、現在養護学校高等部に 在籍し、家庭生活で意欲的な自閉症周辺群のK事例 | 大柴 文枝…………… | 39 |
| 7. 寄宿制養護学校に在学し作業学習を 中心とした指導を受けている自閉的傾向のあるL事例 | 武居 孝男…………… | 43 |
| 8. 自閉症児の社会的自立へ向けての学校教育と家庭生活 —余暇活動にかなりの豊かさがあり、15歳で就職したM事例— | 東條 吉邦…………… | 47 |
| 9. 激しいこだわりを持つ幼児期を経て、小・中学校の 普通学級で学習し、高校を受験して入学したO事例 | 小山 創…………… | 51 |
| 10. 幼児期に多動などが問題となった、 養護学校中学部に在籍するQ事例 | 太田 俊己…………… | 55 |

III 自閉児教育の課題 —事例の検討をふまえて—

- | | | |
|---|------------|----|
| 1. 自閉症の早期発見と早期対応 —乳幼児期の発達の特徴をめぐって— | 東條 吉邦…………… | 59 |
| 2. 教育相談 —保護者への援助— | 広瀬 淑子…………… | 63 |
| 3. 自閉症を伴う人の行動特徴の経年的変化について | 馬岡 清人…………… | 67 |
| 4. 自閉症児の就学と教育の場の選択 | 小山 創…………… | 73 |
| 5. 自閉症児の教育の内容・方法 | 寺山千代子…………… | 77 |
| 6. 卒後の進路 —幼児期の発達と予後との関連を中心に— | 大柴 文枝…………… | 81 |
| 7. 余暇・地域 —余暇の質を支えるもの・地域での豊かな暮らしに向けて— | 太田 俊己…………… | 85 |

IV 自閉児教育への提言

- | | | |
|---|------------|-----|
| 1. 医療から学校教育に期待すること | 中沢たえ子…………… | 89 |
| 2. 情緒障害学級での指導課題と予後との関連 | 鈴木 茂…………… | 95 |
| 3. 生活施設における年長自閉症児指導の経験から 学校教育へ期待すること —その1— | 片倉 暎子…………… | 99 |
| 4. 生活施設における年長自閉症児指導の経験から 学校教育へ期待すること —その2— | 石井 哲夫…………… | 103 |

V 本研究を省みて

- | | |
|-----------------|-----|
| まとめと今後の課題 | 109 |
|-----------------|-----|